



雪と氷の世界が広がる極北の大地。その力強さと高い知性から、先住民が畏敬の念を持って「ナヌク」と呼ぶホッキョクグマ。太陽の光によって劇的に変化する広大な空の下、氷原の世界に生きるホッキョクグマの親子を中心に、その生命・存在に迫ります。

星野氏が撮ったホッキョクグマは、どこまでも優しい表情（かお）をしています。

2022年に星野氏のアラスカの自宅で見られたパノラマカメラや、その中に撮られていたフィルム作品。これまで未公開だった作品など、星野氏が撮ったホッキョクグマの作品群を一堂にご紹介いたします。撮影の大冒険の中に暮らすホッキョクグマの姿をご覧いただき、動物と人間の大切な絆を感じていただきたいと思います。

The Arctic land, a realm of snow and ice. Indigenous peoples call the polar bear "Nanook," a name born of deep respect for the animal's strength and intelligence. Research reveals that skin that darkens with the light of the sun, the exhibition turns its focus to polar bear mothers and cubs on the ice.

The polar bears in Hoshino's photographs have an unmistakable gentleness in their faces.

For the first time, the exhibition brings together all of Hoshino's polar bear photographs, including prints from film found inside a panoramic camera discovered at his home in Alaska in 2022, along with many other previously unseen works. We hope that these images of polar bears in the frozen wilderness will inspire visitors to reflect on the importance of wildlife and the natural environment.

1-7 撮影：星野道夫 ©Naoko Hoshino



星野道夫

Michio Hoshino

1952年 千葉県市川市生まれ。写真家。
1968年 慶應義塾高等学校入学。
1969年 国民誌アムステルダムにてペンシルベニア州の2ヶ月間、アメリカ人を一人旅する。
1971年 慶應義塾大学経済学部入学。
1972年 探検隊に入る。
1973年 アラスカ・シシムワン村でエスキモーの家族と一泊を過ごす。
1976年 慶應義塾大学を卒業。動物写真の第一人者。日本北極探検隊の助手を務める。14年間のシベリアでの探検隊生活。
1978年 アラスカ大学受雇のため、シアトルの英語学校に通う。
1979年 アラスカ大学立総合博物館学芸員に就任。
1986年6月 第3回アニマル・写真賞（写真）受賞。
1990年 第15回日本対空写真賞（写真）受賞（写真）。
1993年5月 結婚。
1996年 ロシア・カムチャッカ半島クリムルへテレビ番組の取材に同行。
1996年8月8日 72歳の誕生日により急逝。
1999年 日本写真協会会員・特別賞受賞。

WEB：
<https://www.michio-hoshino.com/>



写真展に合わせ、著者別となるホッキョクグマの写真集を刊行します。『ナヌク 氷原の静かなる物語』144頁・クレンジス刊

2026年7月24日（金）-8月13日（木）

会場：フジフィルム スクエア

入館無料

■ 写真展の見どころ

- ・星野道夫氏は、写真家、そして比類ない文章家としても知られ、多くの学校教科書で子どもたちにもなじみの深い存在です。本展では、静寂で美しい雪と氷の世界に生きるホッキョクグマの作品を展示します。
- ・没後30年にあたる2026年、星野氏の作品に登場する主要な生きものの中で、これまでに唯一写真集にまとめられていないテーマ、ホッキョクグマの未発表作品も多数展示します。

■ 写真展概要

フジフィルム スクエアでは、極北の厳しくも美しい自然やそこに生息する動物たち、現地に生きる人々を撮り続けた写真家、星野道夫氏による～NANOOK ホッキョクグマ 氷原の静かなる物語～を開催いたします。

雪と氷の世界が広がる極北の大地。

その力強さと高い知性から、先住民が畏敬の念を持って「ナヌーク」と呼ぶホッキョクグマ。太陽の光によって劇的に変化する広大な空の下、氷原の世界に生きるホッキョクグマの親子を中心に、その生命・存在に迫ります。

星野氏が撮ったホッキョクグマは、どこまでも優しい表情(かお)をしています。

2022年に星野氏のアラスカの自宅で発見されたパノラマカメラや、その中に残されていたフィルムの作品、これまで未公開だった作品など、星野氏が残したホッキョクグマの作品群を一挙にご紹介いたします。

極寒の大自然の中に暮らすホッキョクグマの姿をご覧ください、動物と環境の大切さに想いを馳せていただけますと幸いです。

■ 開催概要

写真展名：フジフィルム スクエア 企画写真展

星野道夫写真展 ～NANOOK ホッキョクグマ 氷原の静かなる物語～

【同時開催】夏休み自由研究イベント「ホッキョクグマのふしぎ」

開催期間：2026年7月24日（金）-8月13日（木）会期中無休

（開館時間：10:00～19:00・最終日14:00まで・入館は終了10分前まで）

※ 写真展はやむを得ず、中止・変更させていただく場合がございます。ウェブサイト・電話でご確認ください。

会場：フジフィルム スクエア内、富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・3・ミニギャラリー
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3（東京ミッドタウン ミッドタウン・ウェスト1F）

TEL 03-6271-3350（受付時間：10:00～18:00）

URL <https://fujifilmsquare.jp/>

※ 写真展情報は、開催日の前月からフジフィルム スクエアウェブサイトにて、ご案内しています。

※ 祝花はお断りいたします。



入館料：無料 ※ 企業メセナとして実施しており、より多くの方に楽しんでいただくために入館無料にしております。

作品点数：1,000×3,000mm・1,000×1,500mm・600×900mm・400×600mm等、
カラー、約90点（予定）

・フィルムによる作品。

・展示作品は、描写性の高い富士フィルム製品「銀写真プリント」を使用。

・富士フィルム製フィルムカメラ「パノラマ G617 Professional」を展示。

・動物や自然環境に関するパネル、約10点（予定）

巡回展：富士フィルムフォトサロン 大阪 2027年7月16日（金）-8月4日（水）（予定）

主催：富士フィルム株式会社

後援：市川市、市川市教育委員会、港区教育委員会、大阪市教育委員会

協力：アンドリューE.デロシエール（アルバータ大学生物科学部教授／ホッキョクグマ研究の第一人者）、

岸上伸啓（神戸女学院大学客員教授／国立民族学博物館特定教授・名誉教授／総合研究大学院大学名誉教授／文化人類学者）、

星野道夫事務所

監修：坪田敏男（北海道大学名誉教授／岐阜大学名誉教授／獣医学博士）

企画：株式会社クレヴィス

■ 写真家プロフィール

星野道夫（ほしの みちお）

1952年 千葉県市川市生まれ。写真家。
1968年 慶應義塾高等学校入学。
1969年 移民船アルゼンチナ丸でロサンゼルスへ。
約2ヶ月間、アメリカを一人旅する。
1971年 慶應義塾大学経済学部入学、探検部に入る。
1973年 アラスカ・シシュマレフ村でエスキモーの家族と一夏を過ごす。
1976年 慶應義塾大学を卒業。
動物写真の第一人者、田中光常氏の助手を務める（2年間）。
1978年 アラスカ大学受験のため、シアトルの英語学校に通う。
1978年 アラスカ大学野生動物管理学部入学（4年間在学）。
1986年6月 第3回アニマ賞・受賞（写真集『グリズリー』）。
1990年 第15回木村伊兵衛写真賞・受賞（週刊朝日連載）。
1993年5月 結婚。
1996年 ロシア・カムチャツカ半島クリル湖へテレビ番組の取材に同行。
1996年8月8日 ヒグマの事故により急逝。
1999年 日本写真協会賞・特別賞受賞。

写真展に合わせて、初めてホッキョクグマの写真集を刊行します。
『ナヌーク 氷原の静かなる物語』 144頁（クレヴィス刊）

ウェブサイト：<https://www.michio-hoshino.com/>

■ 監修者プロフィール

坪田敏男（つばた としお）

1961年 大阪府生まれ。
北海道大学名誉教授／岐阜大学名誉教授
メルボルン大学獣医学部 Honorary Principal Fellow
獣医学博士（野生動物医学／保全医学）
北海道大学総合博物館 元館長

ウェブサイト：<https://wildlife.vetmed.hokudai.ac.jp/> / <https://www.museum.hokudai.ac.jp/>

■ 夏休み自由研究イベント「ホッキョクグマのふしぎ」 [参加無料]

<トークイベント>

1. 写真家 前川貴行氏 ギャラリートーク「星野道夫さんの写真をひもとく」

内容：星野氏に多大な影響を受け、世界中をフィールドに活躍する前川氏が、同じ写真家に師事した兄弟弟子として語る、星野氏のこと、写真のこと。

日時：7月25日（土）14:00-14:45 [一般向け]

申込：予約不要・定員なし（展示会場内 立ち見）



NHKエンタープライズ 自然番組ディレクター

2. 原田美奈子氏 ギャラリートーク「星野道夫さんのホッキョクグマ」

内容：星野氏やホッキョクグマの番組を手掛けてきた原田氏が、番組制作者として現地で体験した、星野氏の世界、ホッキョクグマの世界。

日時：7月26日（日）14:00-14:45 [一般向け]

申込：予約不要・定員なし（展示会場内 立ち見）

星野道夫事務所代表

3. 星野直子氏 トークショー「星野道夫が見たアラスカの自然と動物たち」

内容：星野氏の活動を間近で見つめてきた直子氏が語る、星野氏のこと、そして彼が見つめたアラスカの大自然のこと。

ゲスト：星野氏に憧れ、写真の仕事に就いたプロラボ クリエイトの稲葉誠之氏が語る、本展プリントの制作秘話。

日時：8月9日（日）14:00-15:30（受付開始 13:30）【**小中学生向け**】

申込：事前予約制（先着順）・定員 150 名（展示会場 2 階 座席あり）

申込フォームまたは、お電話・会場でのお申し込み

※ 申込期間：6月18日（木）10:00～8月6日（木）23:59 まで

● 申込フォーム：https://fm.fujifilm.jp/form/pub/sen/square2608_1talk

● お電話・会場：TEL 03-6271-3350（受付時間：10:00～18:00）

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-7-3 フジフィルム スクエア



4. 獣医学博士 坪田敏男氏×写真家 大竹英洋氏 クロストーク「ホッキョクグマから学んだこと」

内容：クマの研究者として活躍する坪田氏と、テレビ番組で星野氏の足跡を辿った大竹氏、それぞれの視点で見つめつづける、ホッキョクグマや自然環境について。

日時：8月11日（火・祝）14:00-15:30（受付開始 13:30）【**一般向け**】

申込：事前予約制（先着順）・定員 150 名（展示会場 2 階 座席あり）

申込フォームまたは、お電話・会場でのお申し込み

※ 申込期間：6月18日（木）10:00～8月6日（木）23:59 まで

● 申込フォーム：https://fm.fujifilm.jp/form/pub/sen/square2608_2talk

● お電話・会場：TEL 03-6271-3350（受付時間：10:00～18:00）

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-7-3 フジフィルム スクエア



【イベントに関する注意事項】

※ 3.4.は、フォームでの申込後、自動返信メールを送信しています。squareinfo@webcas.netからのメールを受け取れるよう、設定ください。イベント参加券の発送はございません。念のため、申込内容をお手元に保存ください。

※ 3.4.は、申込人数が定員数になり次第、受付を終了いたします。満席の場合は当日受付をいたしません。予めご了承ください。

※ 参加をキャンセルする場合は、必ず事前にお電話をください。無断欠席の場合、次回以降の参加をお断りする場合がございます。

※ イベントはやむを得ず、中止・変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

※ イベントの様子は、記録目的で写真撮影させていただきます。フジフィルム スクエアの活動を紹介するパンフレット及び報告書などの印刷物、ウェブサイト、メールニュース、SNS等に掲載させていただく場合がございます。予めご了承ください。

<来館プレゼント>

・クイズ「ホッキョクグマと環境変化について知ろう！」

内容：展示期間中、会場にて自由研究課題向けクイズに回答してくださった方に、本展特製トレーディングカードをプレゼント！【一般向け】

※ 申込：予約不要・定員なし（お一人様 1 枚まで、絵柄はお選びいただけません）

※ イベントはやむを得ず、中止・変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

※ イベントの様子は、記録目的で写真撮影させていただきます。フジフィルム スクエアの活動を紹介するパンフレット及び報告書などの印刷物、ウェブサイト、メールニュース、SNS等に掲載させていただく場合がございます。予めご了承ください。

■ イベント講師プロフィール

前川貴行（まえかわ たかゆき）

1969年 東京都生まれ。動物写真家・田中光常氏の助手をつとめ、2000年よりフリーの動物写真家としての活動を開始。日本、北米、アフリカ、アジア、そして近年は中米、オセアニアにもそのフィールドを広げ、野生動物の生きる姿をテーマに撮影に取り組み、雑誌、写真集、写真展など、多くのメディアでその作品を発表している。

2008年 日本写真協会賞 新人賞受賞。

2012年 第一回日経ナショナル ジオグラフィック写真賞 グランプリ受賞。

2021年 『ハクトウワシ』（新日本出版社刊）にて、令和3年度厚労省「社会保障審議会特別推薦児童福祉文化財」、令和3年度 一般財団法人児童健全育成推進財団「児童福祉文化賞」受賞。

2025年 『ともに生きる 山のツキノワグマ』（あかね書房刊）にて、令和7年度 ども家庭庁「児童福祉文化賞」受賞。

2025-2026年 令和6年度 紺綬褒章、令和7年度 紺綬褒章、二年連続受章。

ウェブサイト：<https://takayukimaekawa.com/>

Facebook：前川 貴行、X：@TakayukiMaekawa、Instagram：@takayuki.maekawa

原田美奈子（はらだ みなこ）

NHK エンタープライズ 自然番組ディレクター

NHKの番組「ダーウィンが来た！」や「ワイルドライフ」などを担当。学生時代は航海学を学び、船長を志したことも。これまで制作した番組で、特に忘れがたいものとなったのが星野道夫氏の足跡を辿る番組。アラスカ北極圏の原野でカリブーの大移動に迫った。

ウェブサイト：<https://www.nhk-ep.co.jp/>

星野直子（ほしの なおこ）

星野道夫事務所代表

短期大学卒業後、書店に勤務。1993年に写真家・星野道夫と結婚しアラスカでの生活が始まる。撮影にも同行し、フィールドでの時間も共に過ごした。1996年星野道夫が急逝。2000年に星野道夫事務所を設立し、日本とアラスカを行き来しながら作品の管理を務める。

ウェブサイト：<https://www.michio-hoshino.com/>

大竹英洋（おおたけ ひでひろ）

1975年 京都府生まれ。一橋大学社会学部卒業。1999年より北米の湖水地方 ノースウッズをフィールドに、野生動物、旅、人々の暮らしを撮影。人間と自然とのつながりを問う作品を制作している。主な写真絵本に、『ノースウッズの森で』、『春をさがして カヌーの旅』（福音館書店）。

2018年 写真家を目指した経緯とノースウッズへの初めての旅を綴ったノンフィクション『そして、ぼくは旅に出た。はじまりの森 ノースウッズ』（あすなる書房）で「第7回梅棹忠夫・山と探検文学賞」受賞。

2021年 撮影20年の集大成であり、自身初の写真集『ノースウッズ 生命を与える大地』（クレヴィス）で「第40回土門拳賞」受賞。

2024年 写真絵本『もりはみている』（福音館書店）で「第66回児童福祉文化賞」受賞。

ウェブサイト：<http://www.hidehiro-otake.net/>

Instagram：@hidehirootake

■ お問い合わせ先

・ 作品の詳細内容について

株式会社クレヴィス 江水、小俣

TEL 03-6427-2806 / E-mail info@crevis.jp / URL https://crevis.co.jp/

FUJIFILM SQUARE

写真を中心とする富士フィルムのフォトギャラリー&ショップ。入館無料で、どなたでもお気軽にご覧いただけます。クオリティの高いさまざまなジャンルの写真を展示する富士フィルムフォトサロン、写真とカメラの歴史を学べる写真歴史博物館の他、最新の富士フィルム製品をご体験いただけるコーナー、さらには、スキンケア・サプリメント商品の販売を行うショップもあり、幅広い層の方にお楽しみいただける施設です。年中無休（年末年始を除く）、入館無料。



MEGENAT
AWARDS
2025

「フジフィルム スクエア」の活動は、公益社団法人企業メセナ協議会主催の「メセナアワード 2025」において、優秀賞 – 写真文化の継承と若手写真家の育成 – を受賞しました。①「富士フィルムフォトサロン」の運営、②「写真歴史博物館」の運営、③「若手写真家応援プロジェクト」の実施、④「フジフィルム・フォトコレクションⅡ」の収蔵・展示の4つの活動が総合的に評価されたものです。

*動物や自然環境に関する写真展を通じて、SDGs（Sustainable Development Goals）について考えるきっかけにいただければ幸いです。SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」に掲げられた取り組みは、本展に通じるものです。



■ 富士フィルムグループの長期目標の設定について

持続可能な開発目標（SDGs^{*1}）やパリ協定^{*2}など、社会課題解決を目指した国際的な長期目標の達成に向け、その重要なプレーヤーとして、企業への期待がますます高まっています。当社のCSR計画「Sustainable Value Plan 2030（SVP2030）」では、こうしたグローバルな目標達成への貢献を目指し、2030年度をターゲットとした長期目標を設定しています。富士フィルムグループは、SDGsの17の目標のうち、下記11項目について目標達成に向けて大きく貢献できると考えており、具体的な取り組みを進めています。

エスディージーズ サステイナブル ディベロップメント ゴールズ

*1 SDGs（Sustainable Development Goals）：2015年に国連総会で採択された、2030年までに国際社会が社会課題として取り組むべき「持続可能な開発目標」。貧困、不平等・不正義の是正、健康、教育、働きがい、気候・環境など17の目標と169のターゲットが定められている。

*2 パリ協定：2015年にパリで開催された第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で採択された、気候変動抑制に関する多国間の国際的な合意協定。地球の気温上昇を産業革命前から2℃未満に抑えることが掲げられている。

富士フィルムグループが主に貢献するSDGsの目標

